

■ 奄美の島唄を鹿大で研究する韓国の大学教授

韓国・国立木浦大学校教授で東アジアの民俗芸術が専門だ。奄美の島唄を研究しようと、鹿児島大学国際島嶼教育研究センターの外国人客員教授として5月に赴任した。

もう一つの顔は韓国の伝統打楽器「杖鼓」の名手にして歌手。10月には鹿大であったコンサートで学生や教員を前に熱唱を披露した。

「沖縄、奄美、韓国へと続く伝統音楽には連続性がある。島唄と韓国民謡にも感情表現や歌い方など共通項が多い。奄美

イ李 ムン先さん



と韓国のつながりを感じてもらえたらうれしい」

2011年4月に鹿大

であった伝統芸能の集会

に参加したのがきっかけ

だった。その足で奄美に

渡り唄者坪山豊さんの唄

を聴き、ほれ込んだ。11

月には喜界の唄者川畑さ

おりさんを韓国に招き、

12月には鹿大の梁川英俊

教授の尽力で再び来鹿。奄美大島、徳之島を訪ね

「留学」を決意した。

島唄への興味は尽きな

い。音楽性や歴史に加え、

歌手元ちとせさんに代表

されるJポップとの融合

に関心を寄せる。「奄美

では多くの子が元さんら

を目標に練習している。

韓国の伝統音楽は危機的

状況。奄美モデルを研究し持ち込みたい」

歴史認識や竹島をめく

り揺れる日韓関係に心を

痛める。「対立する国家

を補完するためにも、音

楽など民間の文化的なつ

ながりが大事になる」

韓国・珍島出身。郡立

民俗芸術団で長く団長を

務め、北朝鮮や米国カー

ネギーホールなど200

カ所での公演を企画演出

した。鹿大には来年2月

末まで滞在予定で、現在

は豊年祭などの行事のた

びに奄美に通う。妻と息

子2人を残し単身赴任中

の49歳。(大塚政志)

か お